



京浜港湾事務所

工事名 横浜港本牧地区岸壁(-16m) (耐震) 築造工事

工期 令和2年3月5日 ~ 令和3年3月26日

施工会社 五洋・りんかい日産特定建設工事共同企業体

工事内容 横浜港本牧地区BC2岸壁の築造のため、調査工、工場製作工、床掘工、本土工、付属工、雑工、仮設工、上部工及び舗装工を施工します。

●本工事の流れ

本工事は、大型コンテナ船の着岸に対応できるように、既存の岸壁（HBC-1）の隣に、ジャケット式栈橋という構造方式を用いた、水深16m・延長80mの新たな岸壁（HBC-2）を整備するものです。

水深を確保するため床掘工を行ったのち、ジャケット式栈橋を設置するための鋼管杭を海底に打設。

そしてジャケット式栈橋を設置したのち、プレキャストPC上部工及び舗装工を行い、新たな岸壁が完成します。



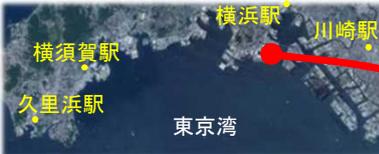
●進捗状況・お知らせ

- ・11月初旬頃から合計24本の鋼管杭打設が完了しました。
- ・12月初旬にジャケット(栈橋)を大型海上起重機船を用いて、打設済みの鋼管杭の上に設置しました。
- ・ジャケット設置後は、プレキャストPC上部工・舗装工などの整備を進めていきます。



横浜港国際海上コンテナターミナル再編整備事業

▽本牧ふ頭 位置図



▽（本牧ふ頭）施工位置図



▽工程表

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
岸壁(水深16m)	■								
航路、泊地・航路、航路(水深16m)									
荷さばき地									

凡例
 ■ 岸壁
 ■ 補助
 ■ 道路
 ■ 航路
 ■ 荷さばき地
 ■ 護岸(防波)
 ■ 荷役機械、上屋
 ■ 新本牧ふ頭地区

Product © 2018 DigitalGlobe, Inc.
 平成30年 10月撮影

横浜港本牧地区岸壁(-16m)(耐震)築造工事

施工状況

床堀工

鋼杭工

ジャケット工

上部工

付帯工・舗装工

■これまでの作業の流れ



工事着手時現場状況

令和2年3月から工事を開始しました。
既存のHBC-1岸壁の隣りに、新たに80mのHBC-2岸壁を整備します。



床堀工

大型コンテナ船が必要とする水深16mを確保するため、床掘を行いました。



鋼杭工

ジャケットの基礎となる鋼管杭（延長L=約44m、直径1.5m）を、大型海上起重機船を使用して海底地盤に打ち込みました。

■12月 ついにジャケット式栈橋を設置！！



ジャケット工

工場で製作したジャケット2基（650t/1基）を海上輸送し、打設済みの鋼管杭に据付ました。

【ジャケット式栈橋とは？】

鋼管で組み立てた立体トラス構造物の脚（レグ）に、杭を打ち込んで海底地盤に固定。杭とレグを溶接またはグラウトで一体化させた工法です。

杭に被せた格好となることから、上に羽織る意味で『ジャケット』と呼ばれます。

これがジャケット？！
車と比べてみると、大きさがよくわかるね。
これが岸壁の基礎になるんだ～！

